

平成 17 年 5 月 21 日

日露戦争 100 周年・第 2 次世界大戦終結 60 周年

を後世に残す記録映画にかんするお願いの件

標題の企画につきましては五年前から広瀬武夫の功績を永く日本国民が記憶に留めるような記録映画の製作を目指し各方面に呼びかけておりましたが実現できずに居ります。

昨年 3 月から、シベリア抑留問題で日本の（財）全国強制抑留者協会に協力を続けて居られるロシアの〈相互理解協会々長アレクセイ・キリチェンコ博士（元ロシア科学アカデミー東洋学研究所国債協力部長・露日協会理事・元東北大学客員教授）と共に、ロシア T V ラジオ局の〈世界の諜報戦争〉シリーズのうち「ロシア対日本」篇{前編・後篇 各 44 分}のシナリオ・編集を引き受け、昨秋完成。部内試写を見た政府関係者から「余りにも親日過ぎる。お蔵入りだ。」との批評を受け「歴史の歪曲は国益に反する」と言うキリチェンコ博士の粘り強い正論のおかげで

「続編は作らないこと。第 2 次大戦後の諜報戦は描かない」条件付で、やっと今年の 2 月 16 日に前編、3 月 2 日に後篇がロシア全土と C I S 諸国で放映され、大きな反響を呼びました。シナリオ・フィルム史料ともに準備した総量の 4 割以下に圧縮されたため、私たちの観点からすれば、重要な個所がカットされ、音声・ナレーションも舌足らずになりましたが、2005 年 5 月 18 日の水曜会で一部を上映し、会員の皆様にご覧頂きました。この作品は、不十分ではありますが、逆コースのロシアで史上初めて下記の史実を、ロシアと旧ソ連諸国の一般家庭の茶の間に届けた意義は測り知れぬほど大きいと考えられます。

ロシア史上初めて T V 報道された史実

- (1) 日清戦争,その後の日本とロシアの対立,日露戦争の客観的な原因。
- (2) 日本では「ロシア側の砲弾直撃で一片の肉片を残して戦死した」とされている広瀬武夫中佐は、港湾入り口に停泊していたロシア戦艦レトビザンから水兵達が乗り組んで近付いた複数のモーターボートの一斉射撃で戦死、遺体は軍外套を着た,全く損傷の無い状態でロシア側に収容され、ペテルブルグ時代に親交のあったコヴァレフスキー子爵の二人の子息（セルゲイ、アナトーリー共に極東艦隊勤務の海軍将校）

が旅順港の埠頭で遺体の確認に立会い、これが広瀬である事を証明し、外套のポケットから、彼等の妹アリアドナが広瀬に贈った形見の時計を見出した事、遺体は、ロシア海軍葬をもって旅順のロシア海軍墓地に埋葬された画面と、広瀬の恋人であったアリアドナのポートレートは、竹田市の広瀬神社にもない貴重なものです。

(注=映画では割愛されて居りますが、最初のシナリオでは「旅順陥落後、広瀬の遺体は日本へ運ばれた」とあるのですが、日本では上記の事実は報道されて居らず、杉野兵曹長の生存説<林えいだい著「日露戦争秘話 杉野はいずこ」新評論社 1998年刊>と併せ、調査・検証の要があります。なお、アリアドナが広瀬に贈った、名工パーベル・ブーレ作の時計(蓋にアリアドナのイニシャルと愛(アモール)の頭文字を意味する“A”の文字入り)の行方は不明です。このエピソードの執筆を担当した海軍作家のビターリー・グザーノフ氏に数年前に聞いた話では、1917年の革命後のコヴァレフスキー海軍少将一家がたどった運命は不詳ですが、子息の一人は米国に亡命し、生涯を過ごしたようです。)

- (3) 日本の情報戦略の創始者が福島安正であること、頭山満、内田良平、石光真清らの果たした役割、短命ではあったが存在したロシア極東共和国の誕生についても紹介できたこと。
- (4) 1907-1917年の間、日本とロシアは史上かつてない友邦となり、<黄金の十年間>となったこと。第一次世界大戦に際して、日本はロシアに武器を供給援助し、支援しました。1916年には日露軍事・政治同盟秘密条約がペテルブルグで、ロシアのサゾフ外相と本野一郎駐露日本公使の間で調印されて居り、その第2条では「一方の条約当事国によって認められた他方の当事国の、極東における権利もしくは特別な利益が何者かによってよって脅かされた場合、ロシアと日本は上記の権利及び利益の擁護と保護のため、相互支援と協力を見込んだ措置にかんし二国間で申し合わせる」と規定され、これに基づいて日本は法的に正当な援助として「シベリア出兵」を行ったものであり、他国の「干渉」とは違う事。また、画面では語られて居りませんが、「ロシア軍に参加してドイツ軍と戦いたい」日本人義勇兵志願者は、優に2個軍団を編成できる数に達しましたが、ロシア国防省参謀本部は、種々の理由から、これを認めなかったとのことです。
- (5) 東京裁判で持ち出された<田中メモランダム>が、ソ連ゲーペーウー(国家保安部)による偽造文書であったこと。
- (6) 日本武官(秦彦三郎や小松原道太郎)に偽情報を流すソ連將軍(実際はゲーペーウーの工作員)を演じさせた「將軍作戦」
- (7) 1927年にトルコ駐在武官だった橋本欽五郎が「ソ連攻略はコーカサス民族主義を利用するのが最速」と、東京の参謀本部へ今日のソ連・ロシアの泣き所を予見するような報告を送ったが、ソ連の情報機関は、当時、いち早くこれを写真に撮っていた事実。

- (8) ハサン湖とノモンハン地区における日ソ両軍の戦闘にかんする客観的分析。
(9) 日露戦争の情報戦は日本側の完勝。30年代以降はソ連側の一方的勝利でした。

アレクセイ・キリチェンコ氏からの便り

「この映画で使用された画面・音声は、準備した全体の40%以下に過ぎず、個人的には満足して居りません。 この映画の重大な欠点は、第3篇の製作と、戦後の日ソ諜報戦を扱う許可が下りなかった事です。完璧な記録映画を創るには、日本側で製作することが必要です。是非ご検討くださるようお願い申し上げます。

いつの日か、ロシアと日本が、最も親しい友人になる日が来るように祈って居ります。とりわけ、極東で軍事力を誇示している危険な敵対者を目の前にしている現在、それは尚更です。1916年に締結されていた<露日軍事・政治同盟>が復活するよう全力を尽くす必要があります。1916年当時、米国と英国は、この事実に危機感を抱き、ロシア国内では革命を、国外ではロシアと日本が対立するように全力を尽くしました。当時の日露両国の政治家の先見性には驚くと共に感服する他ありません。ロシアにとっても、日本にとっても、生き延びるためには、それが必要であると考えて居ります。

アレクセイ・キリチェンコ」

新しい記録映画<日露関係秘史1900-2005>を日本側で

製作し、ロシアTVの作品と併せて両国でひろく放映し後世に残す

歴史的な事業への御支援を心から御願い申し上げます。

祖国日本の歴史を知らない世代が年々増えている現状は「嘆かわしい」の一言に尽きますが、民間で為し得る最善の努力を尽くし、先人の功績と歴史を正しく後世に残すため、お力添えを賜り度ご検討の程お願い申し上げます。

- (1) ロシアTVラジオ局の放映した前後篇 (88分) を日本のTVでの放映実現。(おそくとも9月のポーツマス平和条約調印百周年までに)
- (2) ロシアで製作できない<日露・日ソ100年の諜報戦>の日本での製作。
 - 1 . ロシアTVラジオ局で未使用の膨大なフィルムを利用し、上記(1) 項の続編として、戦後の「ラストポロフ事件、レフチェンコ亡命、オウム真理教とソ連情報機関の協力」その他の事件を網羅した<日露関係秘史1900-2005>を製作し、日本とロシアその他

で、ひろく上映し、戦後世代の啓蒙・教育に貢献することは正に国家的事業になると信じます。

2. 製作の経費・技術的準備について

1) ロシア側

すでにキリチェンコ氏に、下記データを請求済みです。

- ア) 使用できるフィルム史料の内容と長さ
- イ) 新しく製作する記録映画のシナリオ・長さ{案}
- ウ) 納期
- エ) 日本側と契約できる法人名、そのデータ。
- オ) 著作権にかんする説明 (所有者, 使用料など)
- カ) 広瀬武夫にかんする全史料, その外, 日本人にとって関心のある事件・人物にかんする史料は最大限必要。
- キ) 価格 (ブレイク・ダウン付)

2) 日本側

- あ) 報道機関のうち, 産経新聞は「正論」斎藤 勉氏には私から話せます。
- い) 国際交流基金 メディア事業部視聴覚課には, 私から話せます。
- う) その外は, お願い致し度。

以上につきまして御支援賜り度 御検討下さいますようお願い申し上げます。

敬具

日露文化センター

Eメール: tsemek-6@mbj.nifty.com